

教材名：4年生「ごんぎつね」

②評価規準

知識・技能：様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。(1) 才
思考・判断・表現：①登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(C・エ)
②文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C・オ)
主体的に学習に取り組む態度：登場人物の性格について、場面の移り変わりと結び付けながら粘り強く想像し、学習の見通しをもって、感じたことや考えたことを友だちと伝え合おうとしている。

①学習課題

つけたい力：物語を読んで理解したことをもとに自分の意見や考えをもつ力。
そのために：登場人物の会話や情景をもとにして叙述からその行動理由を考える。
言語活動：叙述に基づいた「兵十と加助のアフターストーリー」を書く。

①教材と出会う（構造と内容の把握 精査・解釈）

【発問①】ごんはどんなきつねなのか
・ごんの人物像・兵十（対人物）や村人との関係から人物MAPを作成し、話のだいたいをつかむ
【発問②】お話を読んで不思議に思ったことやもっと深めたいことをみんなで出し合おう。**（私の問いを立てる）**
・ごんはなぜいらすばかりするのだろう
・ごんはなぜ兵十のおっかあが死んだと知って頭をひっこめたのか
・兵十はなぜ火縄銃をばたりと落としたのか
・ごんはなぜ目をつぶったまうなずいたのか
【発問③】ごんがいたずらをする理由は
・「人がきらい」家族が人間に殺された？（叙述にない）
・「人と仲良くしたい」（さみしさからの気持ち）
→でもごんはそんなこと気づいてないかも
→ごんのさみしさがたくさん書かれている
→土だけでできた家 電気もない 暗い穴の中でひとり
→しだのしげった しめった場所 太陽があまりあたらない
→この話の中にごんが誰かと話したところはない「 」がない
【発問④】ごんの行動の変化のきっかけは
・うなぎを盗んだから ・うなぎ盗んだだけでは行動が変化していない
・自分のせいで兵十がひとりぼっちになったと思い込んだから

②考えを深める（考えの形成 共有）

【発問①】みんなで立てた問いの中でまだ解決できていない問いを「解決できない問い」「じっくり考えたい問い」「いま考えたい問い」に分けます
・「ごんはいつから一人ぼっちか」はいくら考えてもわからない
・「最後のこのお話の結末でごんは幸せ何%か」は明日ゆっくり考えたい
・「2, 3日降り続いた雨が上がった時、なぜごんはほっとしたのか」について。雨がきらいだったから
・雨はみんなあんまり好きじゃないけど、あんな暗い山の穴のなかは、どろでぐちゃぐちゃ
・そんなところにずっといるのはいやだけど、いたずらがしたいから
・いたずらがしたい理由は、人と会えるし、人とかかわることができるから
・もっと上手に人と仲良くできたらよかったのにな ・きつねと人間ってやっぱりむずかしいと思う
・ひとりぼっちのごんがやっとだれかと会えるとか思ったはず それがいたずらしかなかった

③言語活動（創作文） ○成果と●課題

○「ごんぎつね」の冒頭にこの話がだれかから受け継がれていることを確認し「最初に誰が誰に話したのか」を共通認識してスタートした。 ○つけたい力をつけるためにこの言語活動を設定していることを学習の中で子どもたちと何度も確認できたので、叙述にもとづいた具体物を作成することができた。
○思考を深める場面で「一人で学ぶ」「班で学ぶ」を行き来できる場を設定したことで意欲的に学びに向かう姿があった ●今回の学びが他教科でどう生かせるのか子どもたちとの確認が不明瞭だった

子どもたちのふりかえりより

・先生が話す授業もあったけど、ほとんど自分たちで考えて話し合えたから楽しかったし、こんな授業がいい
・ずっと座って話すばかりじゃなくて、ちがう友だちの意見も聞いて自分の考えも変わった
・国語はにがてだったけど、4年生になってだんだんすきになり、もっと勉強したいなと思うようになった



単元計画
はこちら